

富山市立図書館

# 図書館だより 第21号



市電通り 市立図書館前

## 目次

平成 18 年度 富山市立図書館主要事業 .....	2
私のシルクロード展 .....	3
いちおしライブラリー 第 9 回	
「どこか行きた～い！」と思っているあなたへ送る本 .....	4
地域館紹介 vol.5 「富山市立山田図書館」 .....	6
レファレンスあれこれ .....	7
山田孝雄文庫の資料 21 「梁塵秘抄(りょうじんひしょう)巻第二」 .....	8

# 平成18年度 富山市立図書館主要事業

## 《図書購入事業について》

富山市立図書館は昭和 45 年に開館して以来 35 年が経過し、生涯学習の中核的施設として市民の間に定着しています。

図書館利用が定着化するに伴い、資料に対する要望は多様化・高度化してきていて、それらの要望にこたえるため、生涯学習時代にふさわしい各種資料の収集を図ります。

図書館法では「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」と定義されていて、図書購入事業は図書館の根幹をなす事業です。



## 《コンピュータシステムの統合について》

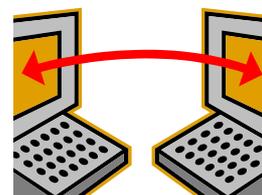
図書館コンピュータシステムを本館のシステムに統合し、市内のどの地域館でも、本館や他の地域館、分館の蔵書を容易に検索できるようにします。また、今まで各館ごとに登録の必要があった図書利用カードを一枚にまとめ、利便性を図ります。

現在、図書館コンピュータシステムを導入している地域館では、コンピュータシステムが本館とは異なるため、蔵書の一体的・効率的運用が難しい状況となっています。

大山・婦中図書館の図書館コンピュータシステムが老朽化してきているのに加えて、交換部品がないため、保守・修繕が困難な状態にあります。

また、山田・細入図書館は電算化されていないため、本館をはじめ全館の蔵書を一体的に利用することができません。

そこで今年度は、システムの保守・修繕が困難な地域館、電算化されていない地域館を対象とし、大山図書館、婦中図書館、山田図書館、細入図書館の4館のコンピュータシステム統合を行います。



## 《山田図書館移設について》

山田小学校・中学校の移設統合を機に、現山田図書館（山田公民館内）を山田小中学校内に移設し、学校図書館機能と公共図書館機能を併せ持つ図書館として運営していきます。

加えて、公共・学校両図書館機能を十二分に発揮できるよう、蔵書と設備の充実を図ります。

## 《水橋分館移設について》

水橋西部公民館新館完成にあわせ、水橋分館を公民館内に移設します。また、水橋郷土史料館と併設されることにより、地域の特性を生かしたサービスを行えることとなります。

またこれを機に、書架を耐震対応のものとし、蔵書と設備の充実を図ります。

## 《とやま市民交流館図書サービスコーナーの拡充について》

ビジネスマンへの支援サービスをさらに拡充するために、とやま市民交流館パソコンルームを、図書サービスコーナーとして活用していきます。

ビジネス関係図書や法律・商業関係、外国語学習図書の充実を図り、拡張したスペースに閲覧座席を増やします。



# 私のシルクロード展

シルクロードの旅をライフワークとする高林和子氏が収集された資料展を 1 月 5 日～2 月 5 日まで開催しました。



コレクションの主な内容は、図書、地図、写真、布地、工芸品、砂漠や湖で採集した石、砂、化石など 2,000 点を超え、図書や地図には国内で入手できない貴重な資料も含まれています。また、訪問地および訪問年ごとに整理された写真アルバムは、現地の状況を後世に伝える貴重な資料といえます。

期間中には 2,000 名を超える入場がありました。東京から 8 名、埼玉 2 名、石川 1 名、新潟 7 名と、県外の来場者もあり、県内在住のウイグル、カザフ、モンゴルなどの出身地の方は、懐かしい資料や品々を眺め、故郷に思いを馳せておられました。

これら資料は一括して図書館に寄託されたので、資料の閲覧をご希望される方は、富山市立図書館本館までお問い合わせください。寄託資料の目録は、図書館が発行する増加目録 285 号と 289 号に掲載します。

【高林和子氏について】  
歌人。昭和 43 年より、短歌雑誌「コスモス」同人。昭和 50～57 年「コスモス」富山支部代表。昭和 59 年「コスモス随筆賞」、63 年「O 先生賞」をそれぞれ受賞。富山市在住

## 高林和子氏 シルクロードの旅 (1974～2005)

1974 年 7 月	ソビエト領中央アジアの旅
1976 年 3～4 月	シルクロード 5000 キロ実験ルートの旅 パキスタンからトルコへ
1977 年 9 月	インド・カシミールと小チベットの旅
1978 年 9 月	アフガニスタンの旅
1982 年 8～9 月	中国シルクロードの旅(富山県シルクロード調査隊)
1990 年 9～10 月	中国・新疆 タクラマカン砂漠一周と敦煌の旅
1991 年 9～10 月	中国・ソビエト国境ホルゴスからシルクロードを西安へ
1993 年 6～7 月	中国・新疆 東天山山脈一周の旅
1994 年 7 月	中国・新疆 哈密へ入善町友好都市調査団と同行
1994 年 9 月	カザフスタン・キルギスタン・イシク・クル湖の旅
1994 年 9～10 月	中国・新疆 西域南道の旅
1995 年 6～7 月	中国・新疆 ジュンガル盆地一周の旅
1995 年 8～9 月	中国・新疆 東天山山脈一周の旅
1996 年 8 月	中国・新疆 哈密へ入善町友好都市調査団と同行
1996 年 10 月	中国・新疆 タクラマカン砂漠縦貫とアル金・崑崙へ
1997 年 7 月	パキスタン・新疆パミールカラコルム・ハイウェー 中巴公路の旅
1998 年 3～4 月	中国・新疆 玉門関から楼蘭探検の旅
2000 年 7～8 月	中国・新疆 天山南路・天山北路・天山古道の旅
2004 年 6 月	中国・新疆 天山古道の旅
2005 年 7 月	中国・新疆 東天山山脈一周「楽しい農村」の旅

# 「どこか行きた〜い！」とっているあなたへ送る本

重い冬の空が晴れ、暖かい日が続くようになり、すっかり春ですね。皆さん、そろそろお出掛けの気分じゃありませんか？「どこか行きた〜い！！」私の口癖です。しかし、そうそう旅行に行く余裕がない私は、本で“どこか”へ行った気になっているのです。そんな旅行の本を紹介したいと思います。せっかくなのでガイドブックではなく、普通だったらできない(というよりしないであろう)旅の本を紹介します。



まずは温泉旅行、といっても秘湯ですよ、秘湯！

『アラマタ版妖しの秘湯案内』

(荒俣宏著 小学館)

湯煙におおわれたようなピンホールカメラで撮った写真とさまざまな秘湯に入ったアラマタ先生が解説しているエッセイです。ピンホールカメラというのは露出やレンズなどがなく、箱にちいさな穴を開けて直接フィルムに焼き付けるカメラです。薄ぼんやりとした風景が温泉にいるような臨場感を持って映し出されています。この本には、桜の花の下で入れる温泉として、富山県の宇奈月温泉も紹介されています。



続いては、せっかくなので、変わった観光名所を紹介します。

『晴れた日は巨大仏を見に』

(宮田珠己著 白水社)

昭和から平成のはじめにかけて日本各地に建立されたやたらと大きい大仏 = 巨大仏を見に行くという巨大仏旅行(著者の造語だそうです)エッセイです。仏像を見て歩くエッセイといえば『見仏記』(いとうせいこう・みうらじゅん著)などありますが、巨大仏旅行記は、町なかの風景に溶け込むことなく、唐突に立っている巨大な仏像について語っています。たし

かに、電車に乗っていると窓の向こうに突如“ぬっ”と立っている巨大な観音像があったりしますよね。私は近寄ってじっくり見たことがないのですが、みなさんはどうですか。著者は、ときにはタクシーの運転手さんにあきれられながらも巨大仏をみるために全国各地にでかけ、自らその行為をバカバカしいと言い切ります。そして、そのバカバカしさが晴れがましくて、自分の性に合っていたと語っています。確かに、周りに何があろうとも、たった一人で“ぬっ”と立ち続ける巨大仏にはスカーンと晴れた空が似合うような気もします。

わざわざ謎な物を日本各地に見に行くなんて、そんな時間はないよという方にはこちら、『新正体不明』(赤瀬川原平著 東京書籍)をお薦めします。



ツタに覆われてしまっている自転車、トタン屋根にたまった土に生えた草、思いがけない模様

のフェンス…。路上観察の第一人者がおくる生活の中の不思議空間。私たちの身の回りにもきっとある風景を見過ごさずに観察することで、遠くに旅立たなくても日常の生活と少しかけ離れた体験ができると思わせてくれる一冊です。ちなみに表紙を飾っている“正体不明”は富山県にあるものだそうです。



『港町食堂』(奥田英朗著 新潮社)

直木賞作家奥田英朗が船で日本各地の港町を巡るエッセイ。東京在住の著者が仙台に行くためにわざわざ名古屋へ新幹線で移動し、名古屋港からフェリーで仙台へ21時間かけて移動する。佐渡に行くために名古屋経由で敦賀に行き、船で新潟へ渡り、そこからさらに佐渡へ。というような、

普段の生活ではなかなかしない移動方法をとっているのも「港町に船で入る」という企画趣旨を忠実に守るため。各地の港町で、夜中にムカデに咬まれたり、スナックの美人ママに叱られたいと思ったり、猛吹雪の中小学生の剣道大会を見に行ったりと普通の観光旅行ではできないことが起きる旅行記です。

自らの意思ではなく、他人のひとことで日本中旅をつづけた男の本として紹介するのが



『ワッキーの地名しりとり』  
『ワッキーの地名しりとり2』  
(脇田寧人著 ぴあ)です。

テレビ番組の企画でお笑い芸人のペナルティ・ワッキーが街の人と地名を使ったしりとりをして、東海三県(愛知・岐阜・三重)を制覇するという旅だったのに、三重県の地名がでないばかりに、いやおうなく日本全国どころかハワイやタイに行くことになってしまったという人任せの旅。しかも、国内は飛行機の使用は許されず、北海道から鹿児島までの移動をバス・電車・フェリーで三日がかりで行うという無茶。旅の様子そのものも面白く読めますが、ワッキーを取り巻くさまざまな街の普通に生活している人たちの姿がとても素敵に思える本です。

思いつき遠くへ旅立ちたい! と思っている人にはこちらの本はいかがでしょう?



『宇宙の歩き方』  
(林公代著 ランダムハウス講談社)  
実に具体的な宇宙旅行をするためのガイドブックです。宇宙旅行の

基礎知識・旅の準備・ツアー詳細など、宇宙へ行くために必要なさまざまなことをこの本で知ることができます。他にも、「宇宙では体重が減る」「身長が伸びる(ただし胴長になる)」

など体の変化や、衣服・ガーデニングなど宇宙生活についても詳しく書かれています。また宇宙旅行気分を味わうための無重力体験のツアー紹介なども載っています。日本では名古屋空港発着で体験ツアーがあるそうですよ。

国内も海外もましてや宇宙も興味がないという方には空想の旅の本です。

『ダイアナ・ウィン・ジョーンズの  
ファンタジーランド観光ガイド』  
(ダイアナ・ウィン・ジョーンズ著 東洋書林)



アニメ映画の原作者として有名になったジョーンズが書いたファンタジーランド観光ガイドです。この本は、ファンタジー小説を「観光パンフレット」、作家を「ファンタジーランド旅行公社」、読者を「ツーリスト」としてファンタジーランド=物語を皮肉たっぷりに紹介している用語集です。たとえば“秘密の抜け道 いかなる城も城砦も宮殿も神殿も、秘密の抜け道を張りめぐらせていなければ完全とはいえない。(後略)”“魔法使い たいていの場合、信じがたいほど年老いている。(中略) 誰もがいばりくさって予言や謎めいた助言を告げることを楽しんでいるのである(後略)”といったようにファンタジー小説を読む人ならニヤツと笑ってしまうような記述がされています。この本とともに、同著者の『ダークホルムの闇の君』『グリフィンの年』(東京創元社)を読むとファンタジーランドの裏側が読めたような気持ちになって楽しめると思います。

今回は、普段、自分ひとりだったらなかなかできないであろう旅行の本について紹介しました。少しでも“どこか”へ行った気になっていただければと思います。(堀川分館 山崎)

## 地域館紹介 Vol.5 富山市立山田図書館



山田図書館は、山田公民館の2階の一室にある、床面積50㎡弱、蔵書数9,000冊、18の閲覧席しかない、どちらかというと「図書室」に近い小さな「図書館」です。

平成16年度までは職員一人が公民館と併任で業務しており、満足出来るサービスが出来ていませんでしたが、17年度からは常駐司書の配置により、その小さな部屋が生き生きと輝かだしています。

具体的にはホームページの毎日更新、月に一度の図書展示を行い、その紹介を地域広報誌へ連載することにより、より身近な図書館のイメージを定着させています。

また出来る範囲内で読み聞かせ、ブックトーク、レファレンスも行い、「読み手にやさしいアットホームな場所」としての雰囲気づくりも行いました。お陰様で来館者も昨年同期比較では約2倍となっております。

平成18年度には小中学校の改築に伴い、学校図書室と山田図書館との統合。現在のブラウン貸し出し方式から、コンピュータ・システムへの移行が予定されております。

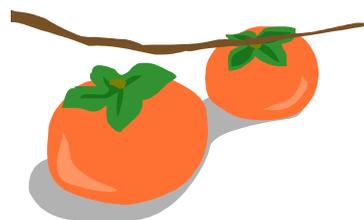
小さいながらも常に新しい方向を目指して情報を発信し、住民に密着したサービスが提供出来る、地域に開かれた図書館となるよう今後も心がけていきたいと思っています。

### 山田図書館の概要

所在地	〒930-2105 富山県富山市山田湯 880
電話	(076) 457 - 2055
F A X	(076) 457 - 2207
開館時間	平日：午前9時～午後5時30分 土：午前9時～午後5時 日：午後0時～午後5時
休館日	毎週月曜日、国民の休日 年未年始（12/29～1/4）
交通機関	地鉄バス富山駅発長沢経由 牛岳温泉センター行き 山田総合行政センター前下車1分
蔵書数	一般書：5,150冊 児童書：3,841冊 ビデオ：143点

### 沿革

- ・昭和53年  
山田村中央公民館2階において図書室開設  
（当時の蔵書1,021冊）
- ・昭和56年3月  
山田村立図書館設置条例が定例村議会で可決
- ・昭和56年4月  
上記条例の適用を受け、山田村立図書館開館
- ・平成16年3月迄  
公民館主事が図書館業務を兼務
- ・平成17年4月  
富山市町村合併に伴い富山市立山田図書館となる



# レファレンスあれこれ

今回は、慣用表現についての質問を3件ご紹介します。

Q. 「一期一会(いちごいちえ)」の意味と出典を知りたい。

以前はあらたまった挨拶などに使われていた成語ですが、このごろは、あらゆる場面で好んで使われるようになりました。本来どんな意味合いを持っていたのでしょうか？

A. 「成語大辞苑」(主婦と生活社 1995)によれば、これは茶人の山上宗二(やまのうえ そうじ・1544~1590)の著書『山上宗二記』に見える「一期に一度の会」から生まれた言葉で、「一期」は一生の意。本来は、「茶席に臨む者は、めぐり合う機会が一生に一度であると覚悟し、主人も客も誠を尽くすべきだ」という意味で、そこから出会いの機会の大切さを説く言葉にもなったということです。

『茶書の研究 数寄風流の成立と展開』(筒井紘一著 淡交社 2003)を見ると、『山上宗二記』は、異本が数点存在するようです。

当館所蔵『山上宗二記を読む』(筒井紘一著 淡交社1987)は、表千家本を底本にして、本文を抄出、これに現代語訳・語釈・解説が加えられたもので、「一期一会」は、「茶湯者覚悟、又十体」の十番目に出てきます。



Q. 英語のことわざで“May flowers ...”という句を含むものがあつたと思う。確認したい。

May flowerといえは、1620年、新大陸に向かった帆船メイ・フラワー号が思い起こされますが、「5月の花」には、何か特別の意味があるのでしょうか？

A. 『現代英語ことわざ辞典』(戸田 豊編著、リーベル出版 2003)は、英語のことわざを主題別に配列したのですが、キーワード索引が付いていて便利です。Mayをキーワードに、“March winds and April showers bring forth May flowers.”を見つけ出すことができます。「三月の風と四月の雨が、五月の花を咲かせる。」春先の気候を表すもので、英国では三月の風、四月の雨、五月の花は、季語のようなものだとか。実はこれは、『マザー・グース』の中の‘Spring(春)’という詩の全文でもあり、showers、flowersと韻を踏んで調子よく、春が来る喜びが歌われています。また日本語訳には「苦あれば楽あり」の意識もありました。



Q. 江戸時代の離縁状「三くだり半」の書式・内容を知りたい。

現在では、「三くだり半を突きつける」は、離縁することを表す慣用表現になっています。実際の三くだり半には、何が書かれていたのでしょうか？

A. 高木 侃著『三くだり半と縁切寺』(講談社現代新書 1992)、同著『泣いて笑って三くだり半』(教育出版社 2001)は、三行半の慣用書式でかかれた古文書、つまり離縁状の実例を豊富に掲載し、詳しい解説を施したもので、おもしろい読み物になっています。三くだり半は、最小限の言葉を使った「離婚文言」と「再婚許可文言」から成っていて、離婚した事実の証明書であり、再婚許可証の側面も持っていたということです。

(館外奉仕係 山崎)



# 山田孝雄文庫の資料 21 <sup>りょうじんひしょう</sup> 梁塵秘抄 卷第二

後白河院編 山田孝雄 大正 11 年〔1922〕写 2 冊 26.7×19.3 cm

題簽白紙。第 2 冊の大きさ：27.8×19.4 cm。本奥書：右一冊以寂蓮手跡徹書記門弟正韻奥書判形有之本書写畢。書写奥書〔山田孝雄自筆〕：右佐々木信綱氏より調査委託あり  
原本精査之料として吾本写し留むるものなり 大正十一年八月十七日 山田孝雄。

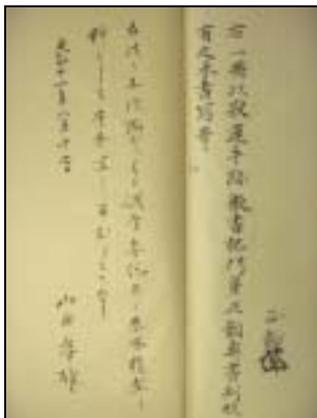


写真 1  
梁塵秘抄写本の部分



写真 2

「梁塵秘抄」は平安時代末の雑芸の歌詞を分類して集成したもの。「本朝書籍目録(ほんちようしょじゃくもくろく)」には「梁塵秘抄二十巻」と見えるが、「梁塵秘抄口伝集」が十巻であることから、「梁塵秘抄」の正編としての歌謡集十巻と口伝集十巻を合わせて二十巻としたものであろうと考えられている。というのも伝存する巻が巻一の一部(抄出本)と巻二(の全部)だけだからである。

巻一の抄出本は綾小路家所蔵の卷子本で室町時代の写本と言われる。巻二は江戸時代の写本で越後国頸城郡高田の室直助旧蔵および村岡良弼旧蔵である。その本は寂蓮手跡本で正徹の門弟正韻の奥書があるものである。和田英松博士がこれを発見し、佐々木信綱が所蔵することとなった。それまで巻二は世に知られておらず、和田英松博士や佐々木信綱博士の歓喜したであろうことは、想像に難くない。

大正元年に和田英松、常盤大定、佐々木信綱の解説を加えて活字翻刻本を刊行する。のち大正 12 年、考証・釈言・翻訳などの附録を加えて増訂版を刊行する。

その際のことであろうか、その写本の調査を佐々木信綱は山田孝雄博士に依頼したことが、この山田孝雄文庫にある写本の山田孝雄自筆の奥書に書き留められている。〔写真 1〕そして、その時の山田孝雄博士の調査結果の一端と思われるものが、大正元年刊の活字翻刻本に書入れとして記し留められている〔写真 2〕、と想像するのは、こういう場合に活字本の余白に山田孝雄博士が直接訂正の書入れや校合の書入れをしたのが、その蔵書中にいくつも残っているからである。もっとも明治以前の書物では珍しいことではなく、著名な文人・学者の蔵書には校合書入れや疑義あるいは論考が朱筆で書かれているものが多い。

(本館 亀澤)

平成 18 年 4 月 21 日 富山市立図書館 編集・発行  
HP アドレス <http://www.library.toyama.toyama.jp>

富山市丸の内 1 丁目 4-50 TEL 076-432-7272  
E-mail [lib-02@library.toyama.toyama.jp](mailto:lib-02@library.toyama.toyama.jp)